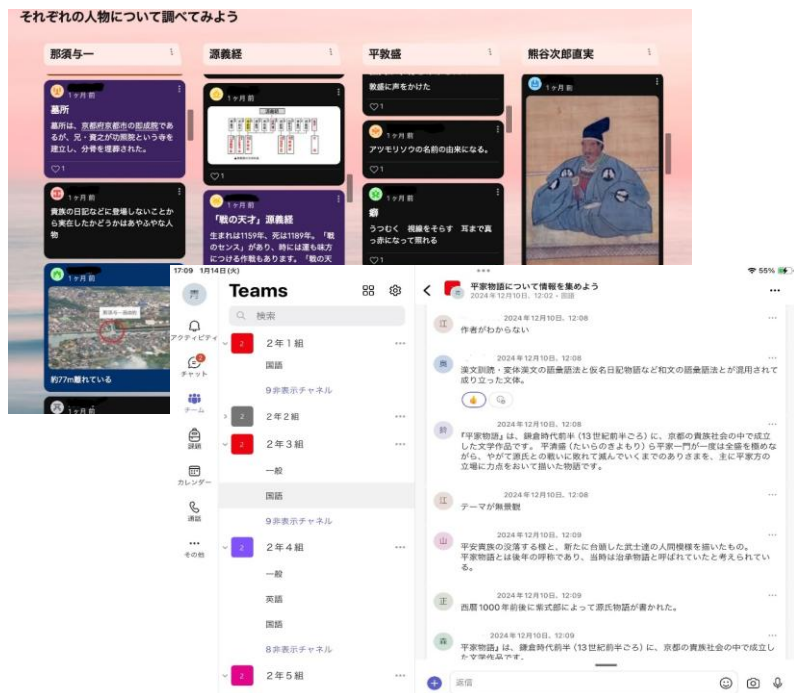


リーディングDXスクール事業【実践事例】

松阪市立三雲中学校（三重県）

【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

**(1) Teams等で情報収集**

情報収集は個人作業であるが、他の人がどのようなことを調べているのか知ることによって、何を調べたら良いのかわからない生徒も参考にできる。他の人の調べた情報も自分の材料として、活用できる。

(2) ジグソー法で協働学習

ジグソー活動をすることにより、一人ひとりが役割を与えられ、自分の担当部分に責任を持って取り組める。エキスパートのグループで活動することにより、同じことを調べている人と協力し合って取り組むことができる。また自分の班に戻ったときに、エキスパートのグループで共有して考えてきたことなので、自信を持って伝えることができる。伝える手段としてタブレットを活用することで視覚的な表現ができるので伝わりやすい。

一人でも欠けるとたどりつけない課題を与えることによって、みんなで協働する学習になり、深い学びができる。

ICTは思考を深めるツールとして活用し、人とのつながりで学びを深めることのできる協働学習によって、集団の中で個が埋没し、置き去りにされない環境が生まれる実践となった。